

実用化技術情報

9. 露地夏秋キュウリの全期間防虫ネット被覆栽培における ミツバチの放飼による流れ果防止

福島県農業試験場 野菜部
平成14年度福島県農業試験場試験成績概要
分類コード 03 - 01 - 35000000

部門名 野菜 - キュウリ - 施設・資材
担当者 藤田祐子

新技術の解説

1 要旨

露地夏秋キュウリの防虫ネット被覆栽培は、アブラムシが媒介するウイルスの感染を防ぎ、殺虫剤の散布回数を削減できる有効な技術であるが、被覆期間中の流れ果発生が問題となっている。このため、ミツバチ放飼による流れ果防止法を開発した。

- (1) ミツバチ放飼により、流れ果の発生が抑えられた(表1)。
- (2) ミツバチ放飼区の収量は、慣行栽培及び防虫ネット被覆(ミツバチ放飼なし)に比較して高かった(図2)。
- (3) 流れ果防止効果はミツバチ放飼頭数、2,000頭/a、4,200頭/aとで大きな差がなかった(表1)。

2 期待される効果

- (1) ミツバチ放飼により流れ果の発生が抑えられ、定植時から収穫終了時までの全期間被覆栽培が可能となる。
- (2) 露地キュウリのほ場を防虫ネット全期間被覆することによって、アブラムシが媒介するウイルスの感染を防ぐことができ、栽培期間中の殺虫剤使用は大幅に削減できる。
- (3) 雹害、風害など気象災害の回避効果が期待できる。

3 適用範囲

急性萎凋症が多発する地域や、ウイルス感染被害の大きいほ場で有効である。

4 普及上の留意点

- (1) 放飼初期はキュウリの花数が少ないので給餌する必要がある。
- (2) 被覆に使用するネットは、1mm目合・透明の防虫用ネットとする。
- (3) 強風で被覆がはがされないよう留意する。
- (4) 防虫ネットの経費は、ミツバチ代金を含め、年負担額100千円程度である。

具体的データ等

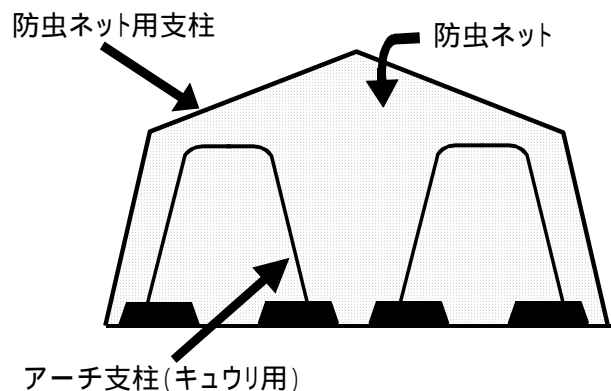


図1 被覆方法

表1 流れ果の発生(4月30日播種、5月24日定植、8月7日調査)

	総節数(節)	総雌花数(個)	流れ果数(個)	流れ果率(%)
被覆+ミツバチ4200頭	214.7	183.0	7.2	3.9
被覆+ミツバチ2000頭	203.2	165.0	2.6	1.6
被覆のみ	211.2	186.0	35.1	18.9
無被覆(慣行栽培)	196.4	166.0	6.9	4.2

注1) a 当たりミツバチ頭数

注2) 総雌花数は、収穫済み・未収穫・流れ果の総数

注3) 流れ果率: (流れ果数 / 総雌花数) × 100(%)

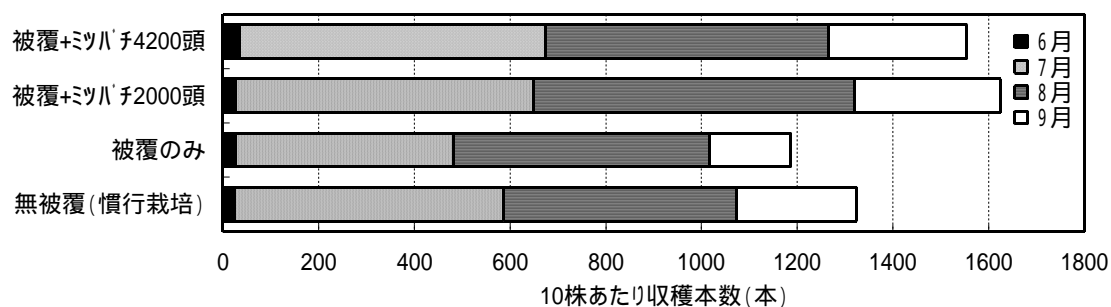


図2 時期別収穫果数(可販果数)

その他

1 執筆者

藤田祐子・高橋 徹

2 その他の資料等

なし